

たじま

TAKUSUI
No. 634

8

August, 2009

発行 (財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



7月に竣工した兵庫県水産会館と調査船「たじま」

NEWS

兵庫県水産会館竣工式・祝賀会 兵庫県新漁業調査船「たじま」竣工式

Report 姫路地区JF合併仮調印式

兵庫県水産会館竣工式・祝賀会

7月11日(土)に明石市中崎において、兵庫県水産会館の竣工式・祝賀会が執り行われました。

心配された空模様も当日は晴れて門出にふさわしい天候での式典となり、9時からの神事は4階第5会議室にて兵庫県、明石市、系統団体、建築、設計関係者約55名により厳かに行われました。

神事終了後、祝賀会が11時より明石市内のホテルに場所を移して兵庫県知事、明石市長、JF全漁連会長を始め、県下各JF組合長など約180名の出席のもと開催され、来賓の井



厳肅な雰囲気の中での神事

戸敏三兵庫県知事は「大輪田塾をはじめ、これからの水産を担う人材育成に新水産会館を活用してほしい。」と祝辞を寄せ、JF兵庫漁連山田隆義会長は「新会館には調理実習室も設置しており、魚食活動を通じ、第2のイカナゴくぎ煮の普及を目指したい」と挨拶されました。

この後、明石市北口寛人市長、JF全漁連服部郁弘会長や国会議員の祝辞に引き続き、関係者による鏡開きが行われ、歓談の後、JF兵庫信漁連秋武宏会長の音頭による万歳三唱で幕を閉じました。



井戸知事・山田漁連会長の鏡開き

兵庫県新漁業調査船「たじま」竣工式



7月31日(金)に香住漁港東港において、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センターの新しい漁業調査船「たじま」の竣工式が約110名の出席者の下、執り行われました。

当日は、例年になく梅雨明けが遅れていたため曇り空の中での式典となりましたが、県農政環境部伍々部長が開式を宣言し、井戸県知事が主催者の挨拶とともに竣工式に寄せた句を詠まれました。また、JF但馬の吉岡組合長、兵庫県議会上田議員、香美町の長瀬町長が来賓を代表して祝辞を述べられました。

式典終了後、主催者と来賓の代表12名がテープカットをして、出席者が船内見学をしました。

新しい調査船の概要は、右記のとおりです。

(1)主な特長

- 地元の底びき網漁船が使用している駆け廻し網とこれまで調査に用いていたトロール網の両方の調査ができる。
- 水深2,000mの深海の調査ができる。
- 曳航式水中ビデオカメラを搭載しており、海底の状況を撮影できる。
- 漁業者の方に乗船してもらい、共同調査や研修ができる。
- 航海速度がアップし、最大航海日数も増えたことから、日本海を広範囲に調査することができる。
- 日本海の時化に強い船型となっており、海難事故等の災害時にも対応できる。

(2)主要寸法等

- 総トン数…………… 199トン
- 全長×幅×深さ…………… 44.50×7.60×3.20m

(3)主機関

- 二イガタ(6MG26HLX-5) 1,323 kW (1,800馬力) 1台

(4)速力等

- ①速力
 - 最高速力…………… 14.67ノット (1ノット=1.852km/h)
 - 航海速力…………… 13.00ノット
- ②航続距離…………… 3,100 海里 (1海里=1,852m)
- ③最大航海日数…………… 10 日

(5)定員

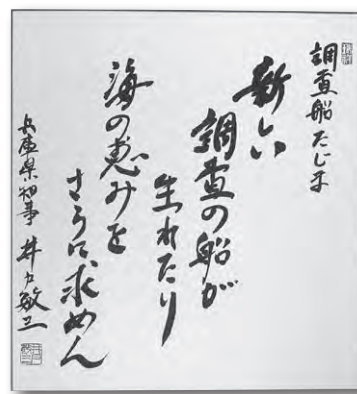
- ①最大搭載人員…………… 23名 (船員13名、その他10名)
- ②24時間未満の場合…………… 43名 (船員13名、その他30名)

(6)その他

船体に表示している船名「たじま」は、井戸知事の揮毫によるものです。本県日本海側の漁業調査船としては、今回が5代目となります。

◎井戸知事が詠まれた句 (「たじま」の竣工式に寄せて)

「新しい 調査の船が 生れたり 海の恵みを さらに求めん」



先人が築かれた歴史に恥じない新漁協の設立を！ 姫路地区8組合が合併仮契約を締結



姫路地区の8組合がいよいよ大同合併に向けて第1歩を踏み出しました。姫路市内の大塩町・的形・八木・白浜・姫路市中部・飾磨・大津・網干の8漁業協同組合は、去る7月27日(月)、姫路市内のホテルで姫路市石見利勝市長、JF兵庫漁連山田隆義会長を立会人に合併仮調印式を行い、平成22年1月1日を期日に合併することを内外に宣言しました。

調印式は、姫路地区合併推進協議会中澤卓生会長(JF的形組合長)が「60年の歴史のなか、先人が築いてこられた基盤があってこの度の調印に至ったことに感謝を申しあげたい。漁協環境が厳しいなか、組織基盤の強化、経営効率の向上をめざし団結する。歴史に負けないように新しい組合に向けて一歩を踏み出したい。」との冒頭挨拶のあと、8組合役員や行政機関、系統団体等の代表者100人余が

見守るなか、各組合長及び立会人が合併仮契約書にそれぞれ署名し手続きを終えました。

続いて来賓祝辞があり、先ず石見姫路市長が「食物の安全安心が求められ、地産地消の考え方は重要。世界的に魚への関心も高く、瀬戸内海の水産物の魅力づくりを“とれとれ海産祭り”や“市場祭り”を通じて強く推進したい」と挨拶され、続いて山田漁連会長から「水協法の改正など漁業への期待とともに漁協の役割、機能の発揮が強く求められており、合併により新時代に向かうことは重要なこと。私の所のJF神戸市は7組合が合併して今年50年になる。この間、様々な困難もあったが県市など行政の力添えて今日を迎えている。石見市長さんから力強いお言葉を頂いている。厳しい時代だが先人が築かれた歴史、文化、伝統をしっかり

引き継ぎ、漁協をいかに守っていくかが我々の役割であり責務である。」と激励された。また、県水産課山村課長は、コープ神戸の生みの親である賀川豊彦の生誕100年を話題に「協同組合に何が必要か？。事業活動も重要だが瀬戸内海環境再生の運動など取り組みも大切なこと」と新組合の活躍に期待を述べられた。さらに、今年4月に合併組合をスタートされている(社)播磨漁友会井上会長(JF岩見組合長)が「合併は(行政や系統の方々など)誰か背中を押してくれる人がいて前に進む。様々な雑音があっても3本の矢の例え通り皆さんの結束こそ強い力となる。仮調印はスタートであり来年1月1日を目指して一層の努力を」と経験を交えて祝意を贈られた。このあと、昼食を兼ねた祝賀会が合併推進協議会山南隆副会長の挨拶で始まり、出席者らは終始和気藹々に新組合誕生への出発を祝いました。

第7回JFマリンバンク全国大会

JF全漁連、農林中央金庫共催の「第7回JFマリンバンク全国大会」が7月7日、東京・台場のホテル日航東京で開かれました。

大会には全国から貯蓄推進委員、優良JF女性部、JF信漁連、JF全国女性連、JF全国漁青連の関係者ら約170人出席しました。

大会の1部では、「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマに石川和彦JF全漁連信用・組織指導部長が基調報告を行い、北海道JFえりも 久米幸美氏、JF新潟信漁連 稲垣青氏より事例発表が行われました。

第2部では、本県の中村利公氏(JF家島)、眞野豊氏(JF但馬)をはじめ全国の貯蓄推進委員54人と8のJF女性部に対する慰労と感謝状の贈呈、協力組織のJF全国女性連、JF全国漁青連からの激励が行われたあと、大会宣言を採択。引き続き、服部学園理事長・校長の服部 幸應氏

による「食育の推進とJFグループの役割」と題した記念講演と記念撮影が行われました。



さかなくんと推進委員で記念撮影

県・赤穂小学校の食育活動にJF赤穂が協力!

JF赤穂市



珍しそうに魚を見つめる子供たち

7月29日(水)、赤穂市民会館で赤穂小学校PTA 夏休み食育教室が開催されました。これは県赤穂健康福祉事務所が実施している「食育推進地域づくり実践事業」の一環で、4年目にあたる今年は、赤穂小学校PTAより、海、山等の自然環境に恵まれている赤穂の地域性を生かした食育活動を行う中で、地元の魚を食材に、との要望があり、これにJF赤穂市が食材提供や魚のさばき方の指導を協力することで実現したものです。

参加者は、市立赤穂小学校の親子39名で、用意された食材は、定置網や刺網、カゴ漁業など赤穂市沿岸で操業され、その日の朝水揚げされた新鮮なものばかり。魚種は、キュウセン、セイゴ、シログチ、マダコなど10数種類におよび、夏らしくトビウオも数尾混じっていました。

食育教室の準備が進められる中、食材の魚が運ばれてくると児童たちの輪が出来上がり、思い思いに魚やタコを触っては奇声を発していました。

教室では、JF赤穂市の職員から今回の食材となる魚の名前や漁法の紹介があり、その後、鱗やタコの内臓の取り方など下処理の方法を中心に指導が行われました。

今回初めて魚をさばいたという児童が4、5名ほどいましたが、皆嫌がる素振りもなく、お母さんや友達と楽しそうに調理を行っていました。

調理の指導は、小学校の栄養教諭からおこなわれ、用意された10数種の魚を取り混ぜたマリネとタコのマリネ、茹でタコ、キュウセンの煮付けのほか、とうもろこしご飯、ベーコンとキャベツのスープ、スイカなどの季節の果物を添えた白玉が完成しました。今回の食材は、魚介類だけでなく野菜類も赤穂市産が用いられ地域の旬が盛り込まれたメニューとなりました。

食事の終わりには、県光都農林職員、赤穂市職員から兵庫県、赤穂市の漁業についての説明や赤穂市の農水産物朝市イベントのPRが行われました。

また、赤穂民報社の発行する地域紙「赤穂民報」の取材も行われ、同紙のHPにも掲載されました。

食育教室終了後にとりまとめられた参加者からのアンケートの集計結果(参加した親16名中15名から回答あり)では、回答者全員から良かったとの評価をいただきました。



うるこ除去に挑戦

第87回国際協同組合デー兵庫県記念大会を開催 テーマ「協同の力で未来を拓く」

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)主催の第87回国際協同組合デー兵庫県記念大会が7月3日(金)明石市生涯学習センターで開催されました。本年はわが国の協同組合の基礎を築いた賀川豊彦先生が神戸で活動を始められて、ちょうど百年を迎える記念の年にあたり、JF兵庫漁連が大会の開催準備万端を担当しました。

記念式典の部では、主催者を代表しJF兵庫漁連山田隆義会長が、会場を埋め尽くす約300名に向かい「お互いに助け合うという協同の理念に立ちもどり、生産者・消費者が手を携えて農林水産物の地産地消を推進し、明るい未来を拓いていこう」と呼びかけ、また、7月オープンの新水産会館の話題にも言及し、「魚食普及活動を通じて、県民の皆さんに安心・安全、そして美味しいことをPRしたい」と抱負を語られました。続いて、来賓の兵庫県農政環境部伍々部長、明石市北口市長から祝辞を頂



山田会長の主催者あいさつ

戴した後、「人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざそう」との兵庫JCC宣言が高らかに読み上げられ、満場の拍手をもって採択されました。

続く第2部では、「賀川豊彦と協同組合」と題し、神戸大学野尻武敏名誉教授による記念講演が行われました。野尻教授は賀川豊彦の生き様と、その行動の基礎となる協同組合主義

について語られ、経済主義・個人主義・効率主義に固められた近代の資本主義の行き過ぎを戒め、賀川の提唱した「人格経済」「友愛経済」「人格社会主義」を実践し、協同運動を一層推進しようと語りかけ、「協同運動とは、より良い社会をつくる運動である」と、しめくられました。



熱弁をふるう野尻教授

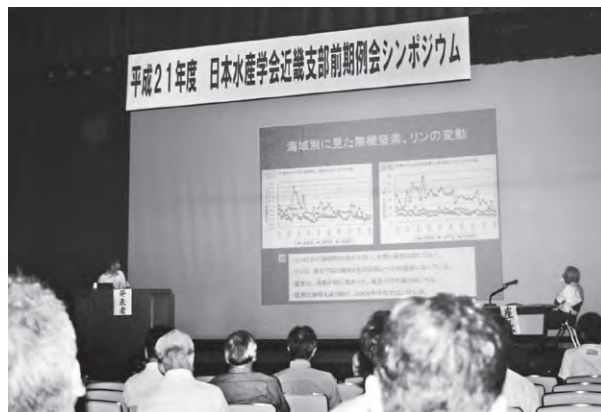
日本水産学会シンポジウム 開催

7月18日(土) 13:00から明石市民会館において日本水産学会近畿支部(支部長:左子芳彦・京都大学大学院教授)主催により「ひょうごの海と魚 ～変わりゆく海と魚食普及～」をテーマにシンポジウムが開催されました。

水産研究者や専門家だけでなく、地元漁業関係者も多数出席し、200名が会場を埋めました。前半は「変わりゆくひょうごの海と今後の課題」と題して、大阪府の水産総合研究センター中嶋昌紀氏による「変わりゆく大阪湾」をはじめ播磨灘の環境変化、赤潮発生の変遷など3題の研究発表が行われ、後半は「明石のさかな 一扱いと流通ー」や「明石前ものの魅力とこだわり」など、魚食普及や魚食文化の面からの発表が行われました。

ここ30年ほどで、知らず知らずのうちに漁業も生活形態も大きく変貌してしまいましたが、いま行われている漁

業や水産物利用の現状報告をもとに、これからの瀬戸内海漁業がどうあるべきかなど、会場の参加者と発表者との間で活発な質疑応答が行われました。



兵庫県水産技術センター見学会及び研究発表会

7月22日(水) 兵庫県水産技術センターにおいて、見学会及び研究発表会が開催されました。

午前中に行われた見学会では、ふれあいプール等の常設展示に加え、パネル展示、顕微鏡観察コーナー、魚拓の製作、貝殻を使った工作、ひょうごのおさかなクイズ、ロープワーク体験等が行われました。地域によってインフルエンザによる休校措置の関係で未だ夏休みになっていない学校があったことから、昨年に比べ来場者は少なめでしたが、ゆったりと開催することができました。

午後からは研究発表会として、試験研究成果の発表に加え、漁業者の活動実績発表も行われました。研究発表では、今漁期不漁だったイカナゴシンコ魚についての報告

や、主に西播地域で取り組みが広がっているアサリの増養殖についての報告があり、漁業者、系統団体等関係者を始め153名の参加者が熱心に聞き入っていました。

また、漁業者の活動実績として、JF但馬香住地区青年部から「ベニズワイガニの資源回復と価格向上への取り組み」、但馬地区漁協女性部連合会から「魚食普及に向けた但馬の取り組み」と題して、それぞれ発表がありました。共に来年3月に東京で行われる全国青年・女性漁業者交流大会の前哨戦として現時点でまとまっている内容について発表されましたが、今回の発表を元にさらに内容の充実を図り、本番に望んでいただきたいと思います。



“安全で快適な海レクを”

プレジャーボートに海面利用ルールを呼びかけ

明石市漁業組合連合会



「漁場取締中」の旗を揚げ注意を呼びかける警戒船

関西地方は梅雨明け宣言がないまま土用丑の日を迎えるのでしょうか？照りつける日差しはまさに夏本番。今年、東播海域では7月上旬からタコ漁が順調で、久し振りに浜に活気が戻ってきていますが、この時期の土・日曜日は情報に目聡い遊漁者が大挙して漁場に押し寄せるため、漁業者の営漁活動が妨げられるだけでなく、海上交通の安全面からも不安の声が出てきています。

このため、明石市漁業組合連合会(会長：JF西二見山本章等組合長)は去る8月1日(土)、各組合所属の漁場監視船4隻を出動させ、大蔵海岸沖合から二見沖までの共同漁業権区域内で釣りをしていた100隻余のプレジャーボートの所有者らに、共同漁業権内は水産動植物の採捕が禁止されていることをマイクで説明し、「明石市沿岸の海面利用ルール」ポスターを配布し、安全に快適に海レクを楽しむよう海面利用ルールの周知広報を図りました。

同連合会は毎年この時期にプレジャーボート各船を海上訪問し、海面利用ルールの適正化を呼びかけており、今回でも、手渡されたポスターをみて直ぐに釣り道具を引き上げ沖へ移動した船もあるように、根強く、冷静に漁業への理

解を求めてゆくという地道な努力は今後も続けてゆかねばなりません。また、県港湾行政で推進されていますが、県内約7千隻の不法係留船を収容するボートパーク整備事業とも連携して、係留ボート所有者のグループ化を図り、それを通じて漁業操業に関する情報発信や沖のルールの秩序化を目指すなど、遊漁者と漁業者が相互理解を深める様々な取り組みも必要では？という現場の声もありました。

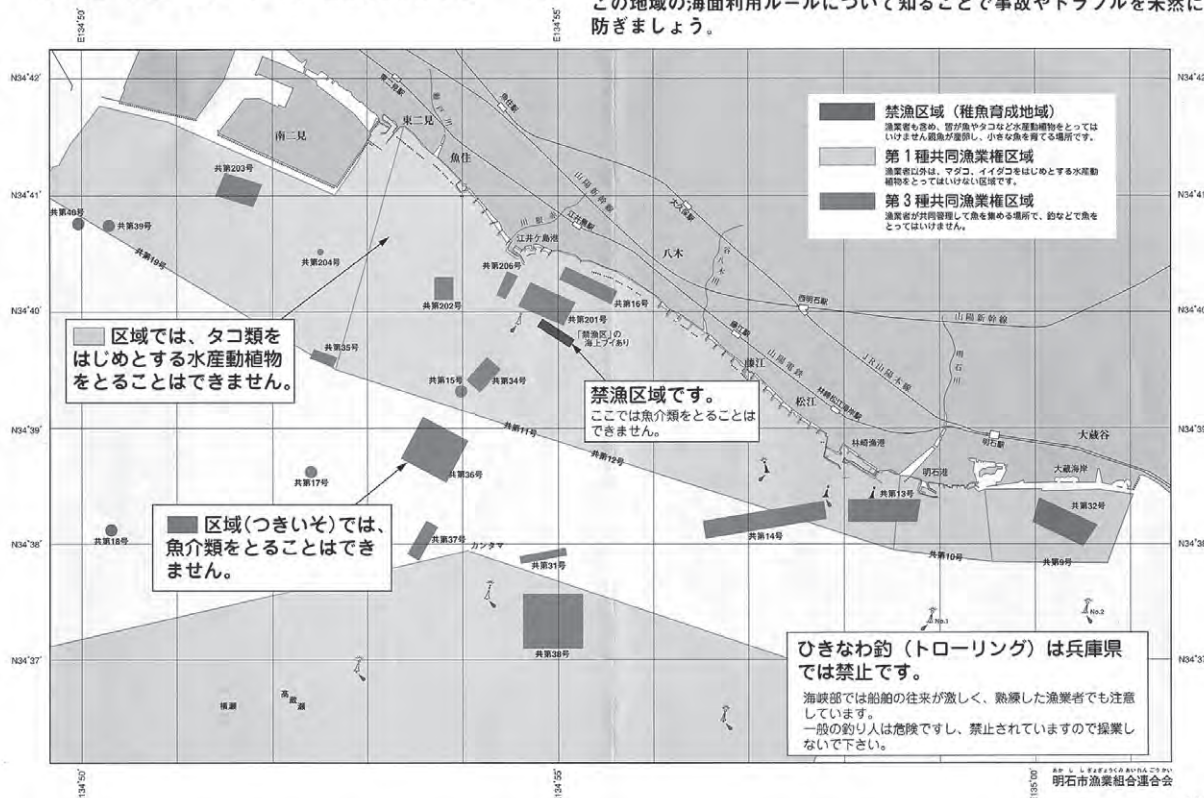


遊漁者への注意喚起

(当日配布されたポスターです)

明石市沿岸の海面利用ルール

みんなが気持ちよく海を利用できるように、明石市沿岸で釣ってはいけない場所や禁止されている漁法などがあることを覚えておきましょう。この地域の海面利用ルールについて知ることで事故やトラブルを未然に防ぎましょう。



「JA兵庫南版農業電子図書館」 を設置

JA兵庫南では、合併10周年を記念する農家支援の一環として、タッチパネル式の情報端末「JA兵庫南版農業電子図書館」を導入しました。このシステムは、指でパソコンのモニター画面に触れるだけで、誰でも簡単に雑草や病害虫、農薬など農業に関する情報が簡単に得られます。

トップ画面は(1)雑草(2)病気・害虫(3)登録農薬に3分類され、そこから順に指先でタッチすることにより詳細な表示へと進み、対策を調べていくことができます。操作が簡単なうえ、画面はイラストや写真で表示され、わかりやすくなっています。また、農家の農業知識の向上と迅速な対策にもつながります。

情報は主に営農関係だが、食品加工、食農教育などの基礎資料も充実しています。現在当JAの各営農経済センターをはじめ、農産物直売所「ふぁ～みんSHOP」や支店窓口など19台を設置しています。



操作方法を農家に教えるふぁ～みんSHOP店長

兵庫県生活協同組合連合会・ 第59回通常総会を開催 コミュニティーネットワークの構築 ～協同が息づく兵庫のまちづくり～

6月23日(火)兵庫県民会館において兵庫県生協連第59回通常総会を開催しました。

代議員36名中、35名が出席し、08年度活動報告、09年度活動計画(案)など5つの議案について審議し、全議案が満場一致で可決されました。

当日は、兵庫県生協連 木村世志雄理事(兵庫労働共済生協専務理事)の司会ではじまり、冒頭、浅田克己会長理事が挨拶を行いました。続いて、来賓を代表して兵庫県健康福祉部長・久保修一様、神戸市市民参画推進局市民生活部長・安廣哲幸様、兵庫県農業協同組合中央会専務理事・三木久和様、日本生協連関西地連事務局長・金子隆之様からそれぞれ大会の盛会と今後の発展を祈念したご祝辞をいただきました。

総会では、まず、第1号議案08年度活動報告ならびに決算報告及び剰余金処分案承認の件、第2号議案09年度活動計画案ならびに収支計画決定の件について提案が行なわれた後、地域、医療、大学、共済生協それぞれの分野から、コープこうべ、神戸医療生協、園田学園女子大生協、兵庫労働共済生協の08年度活動報告が行われました。続いて、審議に入り、第1号議案から第5号議案まで全議案が満場一致で可決・承認されました。

その後の役員選任の結果、専務理事に、大西 憲慈(コープこうべ 特別参与)、監事に金丸 正樹(ろっこう医療生協 専務理事)、秦 正雄(コープこうべ 常務理事)の各氏が新たに就任されました。



第59回通常総会の審議の様様

旬に想う

写真と文
遊方子

七人の侍

◆名匠と謳われる黒澤明監督の初期作品から遺作まで、全30作がテレビ放映された。その後にアンコールを募り、第1位《七人の侍》と決まった。それだけ多くの人に感銘を与えた傑作という証しだろう。百姓が侍を雇って、野武士と戦って勝つという内容である。脚本家／橋本忍が執筆当時の状況を詳細に語る。《七人の侍》の脚本は黒澤・橋本・小国英男の共作となっているが、実際は橋本と黒澤が別々に書いたシナリオを、小国がどちらが面白いかを判断して練り上げたものだそうだ。百姓と侍が一体化し、悪の元凶野武士を全滅させる、憎悪と憤怒と正義のドラマは、シナリオ執筆に45日を要したという。

◆『羅生門』でグランプリ大賞を受け、日本映画の善さを世界に知らしめた。その翌年、七人の侍が撮影開始される。この企画には、それ以前にボツとなった2本の時代劇が根底にある。1本は「武士の1日」を写実的に徹して描くもの、2本目は徳川期の古書を下敷きにした「日本剣豪列伝」で強豪をオムニバス形式で描く内容だったが、1つは武士の生活資料が無くて証拠立て出来ず、2つ目は同じ様な中身で面白さに欠ける。そんな理由で断念、その延長で剣豪の武者修行の話から、浪人の暮らし方に興が移り、《七人の侍》構想が浮上する。

◆映画の善し悪しは脚本で決まるといふ。侍が食うために百姓に雇われる、この発想自体が実に面白い。黒澤監督は、侍7人の性格を具体的に設定し、主役の勘兵衛を百姓の苦境を見過

せぬ慈悲深い性格とする。その伏線として豪農に立て籠もる盗賊から赤児を救う話を挿入した、これは「剣豪列伝」上泉伊勢守の逸話を生かし、勘兵衛は頭を刺った僧形で盗賊を退治する。以降、丸坊主で通し、独特の雰囲気を出す。7人のうち3人が生き残るが、構想段階では誰が死に、誰を生かすかは決まっていなかったそうだ。

◆撮影に日時を掛け過ぎて予算を遣い果たし、会社は製作中止を考へる。しかし監督はこれ迄の撮影済みフィルムを試写し、1番の見せ場である合戦シーンが未撮影では封切り出来ない、会社を納得させて撮影を続ける。その合戦シーンは6月雨の日の設定だが、撮影は極寒2月に行い、俳優らは裸に近い衣装を着て、放水車からの雨水を全身で浴びる。スタッフも濡れ鼠となって、迫力満点の泥まみれシーンが撮られたという。そんな労苦も含めて、時間も資金もたっぷり遣い、リアルさを強調した世界的な名作が生まれた。映画界が黄金色に輝いていた時代だから、実践出来た事のように思うのである。



「アオサギ」(姫路好古園にて)

大輪田塾だより

「水産統計」と「消費流通」

7月7日(火)、兵庫県立水産会館で大輪田塾が開催され、兵庫県企画県民部統計課の芦谷恒憲主幹が「統計から見た兵庫県における水産業の姿」と題し、また生活協同組合コープこうべ生鮮食品部の今井一人水産統括が「水産物の買付・消費」と題して講義が行われました。

今回の講義は2～4期生あわせて8名が受講しました。

芦谷主幹は、水産業における統計の種類や、データから有益な情報を発見するデータマイニングの手法、また兵庫県の県産品の全国での位置付けなど多岐に亘る講義を、今井統括はコープこうべにおける水産物の仕入ルートや安心・安全のための買付時確認、最近の社会環境などの変化や商品動向から立てる仕入計画とその具体例、と密度の濃い内容で講義されました。

塾生は、統計数字の信頼性や最近の嗜好を反映した商品戦略について質疑を繰り返していました。



芦谷主幹の講義



質疑に回答する今井統括

表紙の言葉



「7月に竣工した兵庫県水産会館と調査船「たじま」

7月11日に兵庫県水産会館の竣工式が、また7月31日に兵庫県の調査船「たじま」の竣工式が行われました。JF兵庫漁連をはじめとする系統団体は21日より新水産会館で業務を始めており、新調査船「たじま」は9月の沖合底曳漁解禁に向けた試験操業に備え、連日機器調整を兼ねた航海に出かけています。